

武並町地区防災計画

「自分たちのまちは自分たちで守る」

【暴風雨時避難路編】



恵那市武並町

〈目 次〉

1. 経 過・・・・・・・・・・・・・・・・ 1P
2. 第1章 地域の位置及び概要・・・・・・・・ 1P
3. 第2章 防災計画の基本的な考え方・・ 1P
4. 第3章 地区の課題・・・・・・・・・・・・ 2P
5. 第4章 防災活動の内容・・・・・・・・・・・・ 2P
6. 第5章 実践と検証・・・・・・・・・・・・ 2P
7. 第6章 武並地域自主防災組・・・・・・・・ 3P
8. 第7章 災害時連絡網・・・・・・・・・・・・ 4P
9. 第8章 資料編
 - (1) 台風や集中豪雨の基礎知識・・・・・・・・ 5P
 - (2) 警報・周囲の雨の強さ・雨量に注意・・ 5P
 - (3) 市役所から提供される避難情報・・・・・ 7P
 - (4) 避難の準備と避難・・・・・・・・・・・・ 7P
 - (5) 浸水箇所を避難する場合・・・・・・・・・・・・ 8P
 - (6) 日頃の備え・・・・・・・・・・・・・・ 9P
 - (7) 我が家の防災メモ・・・・・・・・・・・・ 10P

武並町地区防災計画

「自分たちのまちは自分たちで守る」

【避難路編】



恵那市武並町

〔経 過〕

従来、防災計画としては国レベルの総合的かつ長期的な計画である防災基本計画と、地方レベルの都道府県及び市町村の地域防災計画を定め、それぞれのレベルで防災活動を実施してきました。

しかし、東日本大震災において、自助、共助及び公助があわさって初めて大規模広域災害後の災害対策がうまく働くことが強く認識されました。

その教訓を踏まえて、平成25年の災害対策基本法では、自助及び共助に関する規定がいくつか追加されました。その際、地域コミュニティにおける共助による防災活動の推進の観点から、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者（地区居住者等）が行う自発的な防災活動に関する地区防災計画制度が新たに創設されました（平成26年4月1日施行）。

そこで、武並町においても、地区防災計画を策定し、地域住民の安全確保に努めることとします。

第1章 地域の位置及び概況

武並町は、恵那市の西の玄関口として、東は市内長島町、南は市内三郷町に接し、西は権現山系により瑞浪市釜戸・大湫の両町に隣接し、北は木曾川を隔てて市内の笠置・飯地の両町に接しています。特に、西側では、なだらかな丘陵地が続いていますが、土砂災害特別警戒区域の指定がなされているため、避難路の確保においても十分な検討を要します。

JR中央線で、名古屋まで約1時間の距離に位置し、中央自動車道、国道19号線が東西に平行に走っています。

人口は約3,360人、世帯数は約1,060戸を推移しています。町内には中山道の古道があり、JRのさわやかウォークの常設コースとなり、1回に約2,000人の人々が訪れます。

第2章 防災計画の基本的な考え方

武並町は、地震等に対する防災訓練を毎年行っていますが、過去に大きな災害に見舞われていないことから、災害に対する全町的な取り組み（計画）がなされていません。

しかし、全国的に台風や風水害等の発生により人的及び物的な被害が拡大しています。武並町においても、いつ発生するか分からない災害に備える観点から早急に武並町地区防災計画を策定することとしました。特に、平成27年度は、住民が安全に避難するという観点から「避難路」をテーマとした計画を策定します。

第3章 地区の課題

武並町では、極端な人口減少はないものの、年々町内人口が減少しており、今後自治組織の活動が困難になってくることが予想されます。また、若年層の人口が、町外へ流失してしまうことにより消防団活動にも支障を来す可能性が将来あります。そこで、人口増加策を検討しながら、隣接地域の消防団とも連携を模索する必要があります。

道路及び鉄道により地形が南北に分断されているため、防災活動に支障を来す可能性もあります。

災害のケース（地震、風水害及び土砂災害等）に応じた対策及び訓練がなされていないため、いざというときの対応が困難だと思われます。

災害時の要援護者に対する支援体制が整っていないため、安全に避難できるかどうか疑問です。また、自治会等で開設する避難場所等への誘導方法が周知徹底されていません。

災害時の組織体制が明確に決定されていません。また、隣接地区（町）と災害時の情報交換等の連携が明確に決められていません。

こうした地区の課題をどのように解決するかが重要な課題となります。

第4章 防災活動の内容

平成27年度は、「避難路の確保」をテーマとして挙げていますので、各自治会単位で5,000分の1の地形図に「避難路」、「一時避難場所」、「危険箇所」、「要援護者」及び「空き家」を図示します。

- (1) 「避難路」・・・各自治会単位の共通認識とするため集会所等への掲示及び普及に努めます。
- (2) 「一時避難場所」・・・現在指定されている避難場所（武並コミュニティセンター、武並小学校、クリスタルパーク恵那スケート場及び藤多目的研修センター）との整合性を考えます。
- (3) 「危険箇所」・・・危険のレベルに応じて対策を考えます。
- (4) 「要援護者」・・・災害時の支援方法を（仮称）「防災時要援護者支援会議」において検討します。
- (5) 「空き家」・・・危険度等を加味しながら、避難方法を検討します。また、危険度の高いものについては、市と協議し対応策を検討するものとします。

第5章 実践と検証

(1) 防災訓練の実施と検証

平成27年度に策定した武並町地域防災計画（避難路編）の検証作業を平成28年度に実施します。実施方法は、防災訓練において、各自治会単位で実施することとします。また、実施後の課題等について自治会の中で検証し、地区

防災計画の見直しを図ります。

また、平成28年度の地区防災計画のテーマを作成し、次年度以降も地震等をテーマに掲げながら地区防災計画を充実させます。

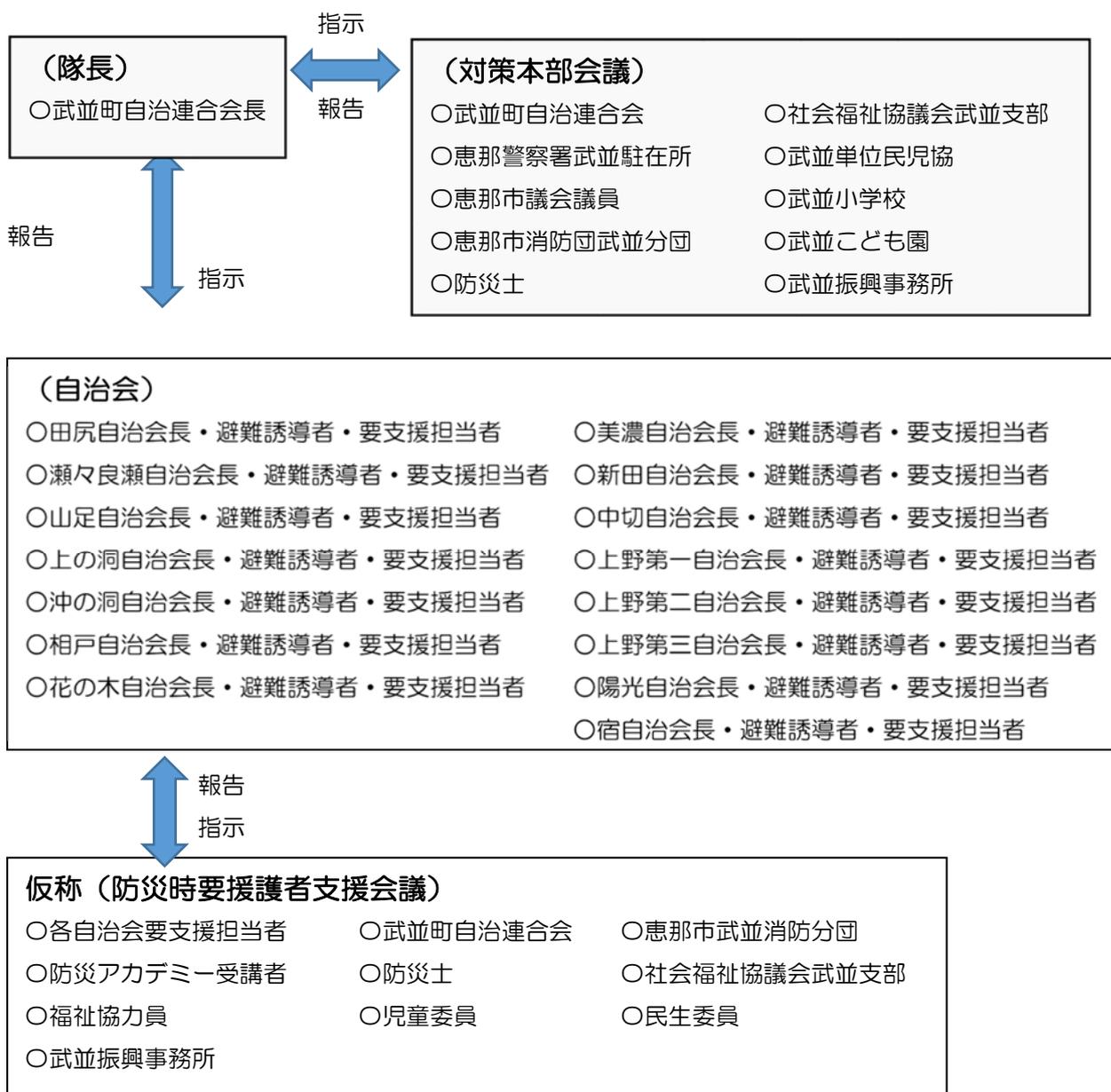
(2) 防災意識の普及啓発と人材育成

地域居住者等の防災意識を向上させ、災害に対応できるよう人材育成及び災害教育を実施します。

(3) 計画の見直し

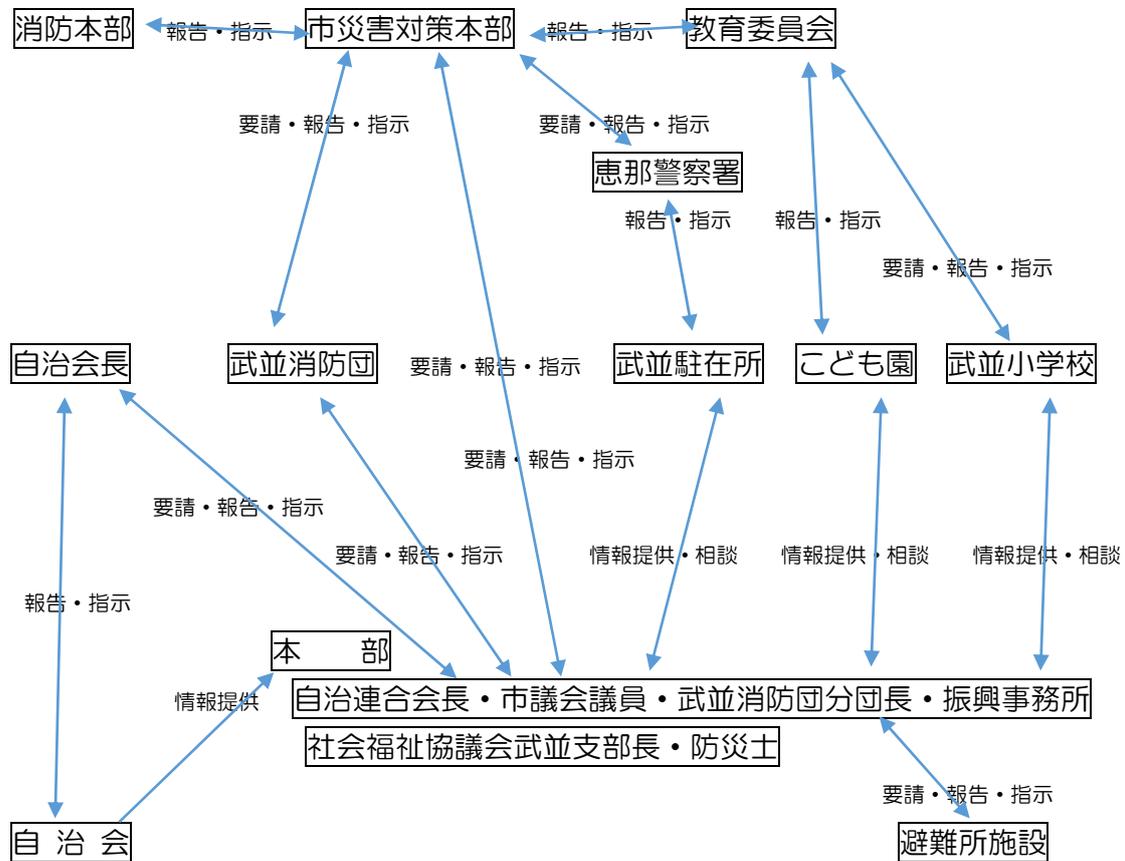
防災訓練の検証結果を踏まえ、定期的に地区防災計画について見直しを行います。

第6章 武並町自主防災組織図

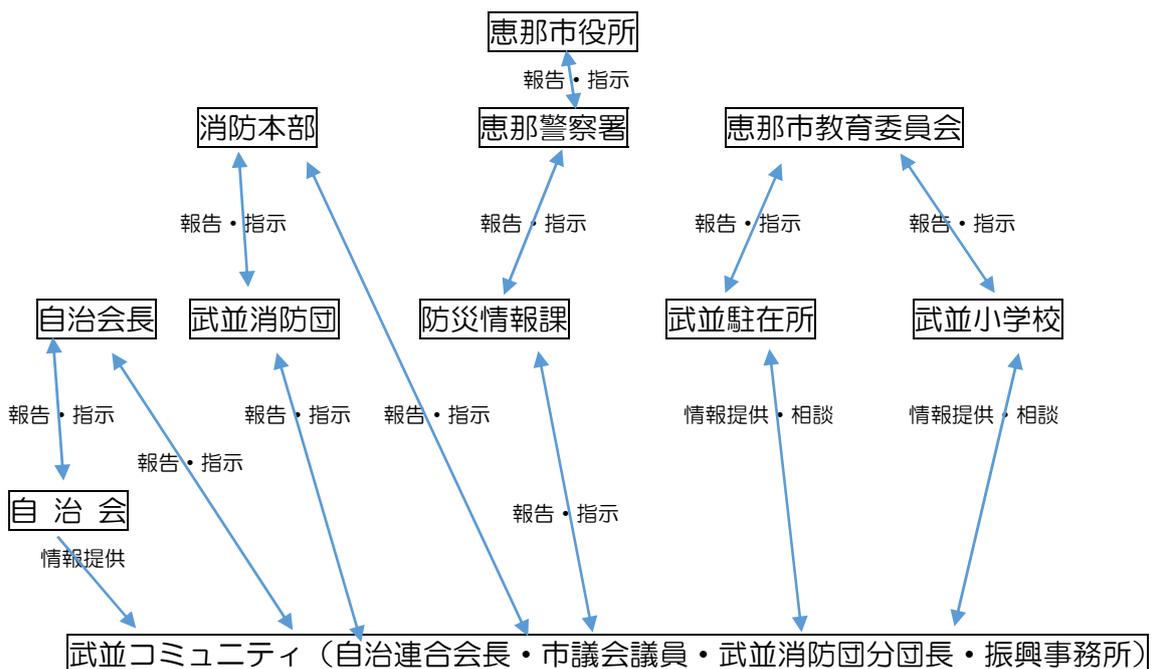


第7章 災害時連絡網

(1) 本部体制あり（警報発令）の場合



(2) 本部体制なしの場合



(3) 今後の課題

連絡網を効果的に機能させるためには、どのような通信手段を用いるかが課題である。さらに警報が発令されていない場合、どの段階でどういう体制をとるのが課題となる。今後実施検証を踏まえながら課題解決の方策を検討する。また、危険箇所の早期発見に向けて、災害想定箇所に隣接する住民等からの情報提供も不可欠となる。

第8章 資料編

(1) 台風や集中豪雨の基礎知識

台風の強さと予想される被害

日本列島は、毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害を受けています。台風の情報に注意して、災害に備えましょう。

■台風の大きさと階級分け

階級	強風域の半径
大型（大きい）	500～800km
超大型（非常に大きい）	800km 以上

■台風強さと予想される被害

階級	風速	予想される被害
強い	33～44m/秒未満	体を傾けないと倒れる。小石が飛ぶ。
非常に強い	44～54m/秒未満	倒れる家が多くなる。木が根こそぎ倒れる。
猛烈な	54/秒以上	鉄塔が曲がる。

■集中豪雨（ゲリラ豪雨）

近年狭い範囲に短時間で強い雨を降らせる局地的大雨や集中豪雨による事故が多発しています。気象の変化によって突発的に降るためにその予想がむずかしい場合があり、中小河川の氾濫や土砂崩れなどによる大きな被害が予測されます。気象情報に十分注意し、万全の対策をとるようにしましょう。

(2) 警報・周囲の雨の強さ・雨量に注意

テレビ、ラジオ、新聞などで発表される気象情報には、警報や注意報の情報は、雨の降り方を知るための最新情報となります。警報や注意報はどんな状況になると発表されるのか、また、警報や注意報の発表と実際の雨の降り方との間にどのような関係があるかを理解しましょう。

■恵那市の警報・注意報発表基準

警報・注意報の種類		発表基準
大雨に関する警報・注意報	大雨洪水警報	3時間雨量 160mm
	大雨洪水注意報	3時間雨量 80mm
	暴風警報	17m/s

風に関する警報・注意報	強風注意報	12m/s
-------------	-------	-------

■ 特別警報の発表基準

大雨	台風や集中豪雨により数 10 年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数 10 年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	数 10 年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合

■ 雨の強さと振り方



やや強い雨（1時間に 10～20mm 未満の雨）
 地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなり警戒が必要です。



強い雨（1時間に 20～30mm 未満の雨）
 土砂降りの雨で、傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、小河川なら氾濫、また、崖崩れの心配もあります。テレビ、ラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えをしてください。



激しい雨（1時間に 30～50mm 未満の雨）
 バケツをひっくり返したような激しい雨です。山崩れ、崖崩れを起こしやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備をしてください。



猛烈な雨（1時間に 80mm 以上の雨）
 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。あたりが水しぶきで白っぽくなります。大雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。避難勧告や避難指示がでる場合があります。

(3) 市役所から提供される避難情報

市の防災行政無線、緊急速報メールや広報車からの避難情報は、主に以下の4種類です。避難情報の種類に応じた的確な行動を心がけてください。

避難情報の種類	市からの呼び掛け	とるべき行動
避難準備情報 (自主避難)	河川の水位が徐々に上昇し、今後、溢水や破堤の危険性のある水位まで上昇することが予想される場合に発表。	お年寄り、子ども、この他援護を必要とする方は避難を開始しましょう。近所にお年寄りなどが居られたら、避難に協力しましょう。いつでも避難できるように避難の準備をして、市、テレビ、ラジオの避難情報に注意しましょう。
一時避難情報	数時間後に溢水や破堤のある水位まで上昇することが予想される場合に発表。	自宅や近隣建物の2階以上に速やかに避難しましょう。
避難勧告	短時間のうちに溢水や破堤のある水位まで上昇することが予想される場合に発表。	指定された避難所に速やかに避難しましょう。
避難指示	溢水、破堤により甚大な被害が発生する危険性が高まった場合に発表。	指定された避難所に直ちに避難しましょう。

(4) 避難の準備と避難

■ 避難の判断

避難準備情報、一時避難情報、避難勧告、避難指示がでていなくても、大雨警報が発表されたり、周辺地域で避難勧告が出たときは、自主的に避難準備をしましょう。

避難勧告、避難指示が出たときは、すみやかに避難しましょう。夜間、雨の中を歩く速度は1時間で1.5~2kmが目安となりますが、お年寄りや子どもが一緒のときはさらに時間がかかります。

市役所からの避難の呼びかけは、雨戸や風雨の音で聞こえにくい場合があるので、注意しましょう。

指定された避難場所への避難が困難になってしまったときには、近くの丈夫な高い建物に緊急避難しましょう。

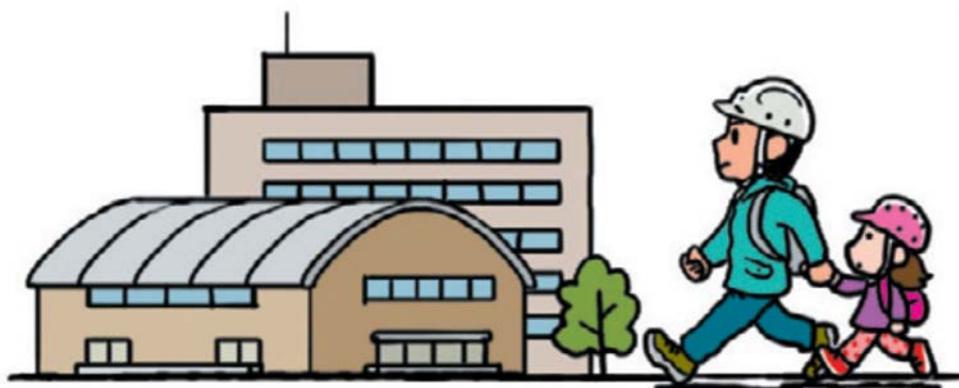
■ 水平避難と垂直避難

危険状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険

が切迫している場合は、指定された避難場所□水平避難だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。



①水平避難



例えば

夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
ひざ上まで浸水している（50cm以上）
浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い
浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落の恐れがある



②垂直避難

②垂直避難

屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

（5）浸水箇所を避難する場合

■注意事項

恵那市では、浸水する前に避難を呼びかけています。しかし、万が一浸水してき

た場合は、落ち着いて慎重に行動してください。



逃げ遅れた場合は、できるだけ外に出ず、屋根など高い場所に移動してください。



夜間に逃げ遅れた場合は懐中電灯などで存在を知らせてください。



野外で浸水してきたら、グループで行動してください。さぐり棒を持ち、マンホール、排水路などに転落しないよう注意してください。

(6) 日頃の備え

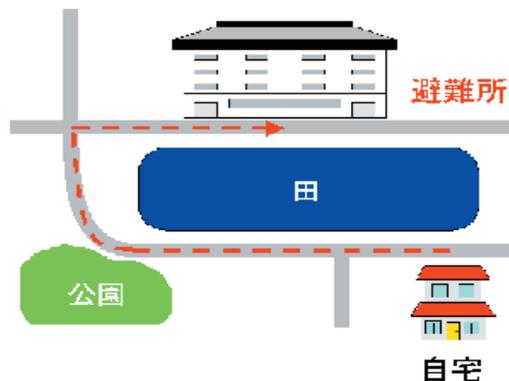
■ 持出品一覧

- 懐中電灯と電池
 - 携帯ラジオと電池
 - 飲料水
 - 医療品・お薬手帳
 - 現金・貴重品
 - 衣服・下着類
 - ろうそく（マッチ、ライター）
 - 食料品（缶切りなど）
 - ヘルメット
 - シート
 - さぐり棒・ロープ類
- ※持出品は、定期的に中身を確認しましょう。保存期限などにも注意しましょう。

チェック年月日： 年 月 日

■ 避難経路の確認

自治会単位で決めた避難ルートを家族みんなで歩いてみましょう。
実際に歩いてみて、浸水時に危険な場所を確認しておくとう安心です。
○側溝 ○水路 ○マンホール





(7) 我が家の防災メモ

我が家の避難所：-----

家族の集合場所：-----

災害時の緊急連絡先：-----

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校の電話番号

■安否確認の方法

NTT（災害用伝言ダイヤル）では、被災地への電話が繋がらない場合、家族・親戚などの安否が伝言により確認できます。

○伝言登録 171+1、に続けて〔自宅の電話番号を市外局番から押す〕

（30秒以内で伝言してください。）

○伝言の再生 171+2に続けて〔相手方の電話番号を市外局番から押す〕

○利用できる電話 一般電話、公衆電話、携帯電話

詳しくは、ご契約されている通信事業者にご確認ください。